

栗駒山の火山活動解説資料（平成 24 年 12 月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1）

大柳（山頂の南東約 20km）に設置してある遠望カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2～3）

火山性地震は少ない状況が続いています。

火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、2008 年 6 月 14 日に発生した「岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

・地殻変動の状況（図 5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 栗駒山 遠望カメラの映像（12 月 17 日 07 時 30 分頃）
大柳（山頂の南東約 20km）に設置してある遠望カメラによる。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 1 月分）は平成 25 年 2 月 7 日に発表する予定です。

※この資料は、気象庁のデータの他、国土地理院、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

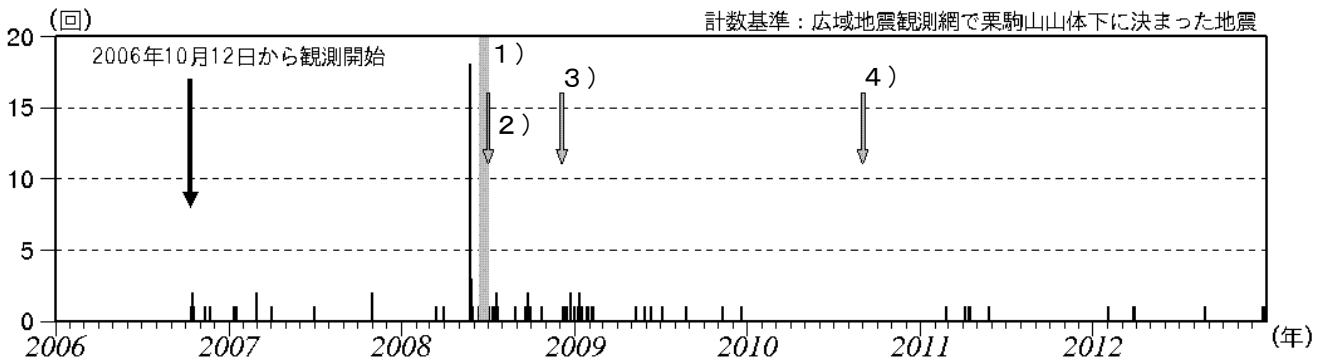


図 2※ 栗駒山 日別地震回数 (2006 年 10 月～2012 年 12 月)

- ・ 2006 年 10 月 12 日から旧耕英観測点 (山頂から南東約 4 km) で観測を開始しました。
- 1) 2008 年 6 月 14 日から 7 月 2 日 18 時 (図の灰色部分) まで「平成 20 年 (2008 年) 岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能となっていました。
- 2) 2008 年 7 月 2 日 18 時から小安 (おやす) 観測点 (山頂から北西約 10 km) で監視を開始。
- 3) 2008 年 12 月 4 日から旧耕英観測点が観測を再開しました。
- 4) 2010 年 9 月 1 日から耕英観測点 (山頂から南東約 4 km、旧耕英観測点とほぼ同じ場所) で観測を開始しました。

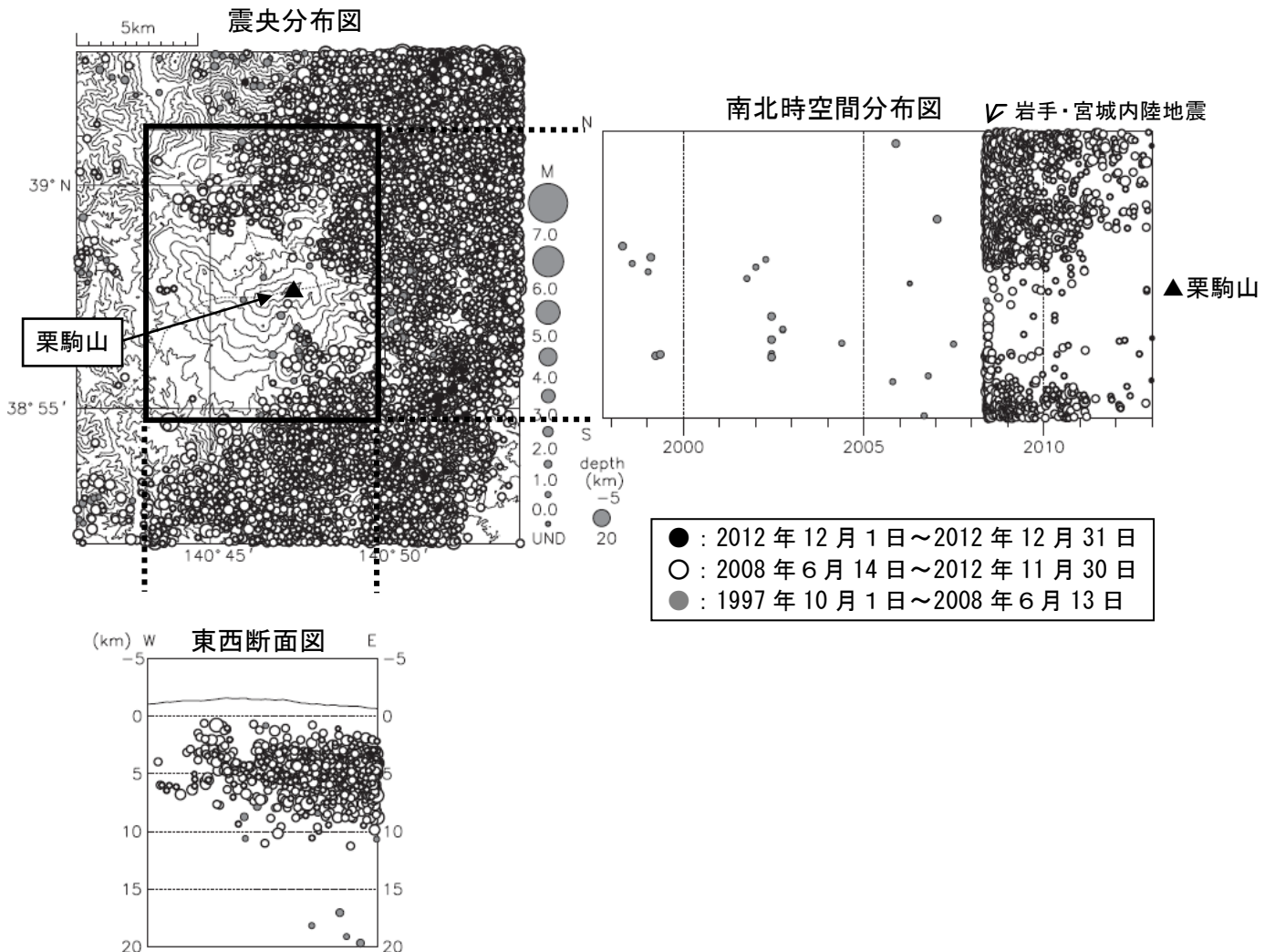


図 3※ 栗駒山 広域地震観測網による栗駒山周辺の地震活動 (1997 年 10 月～2012 年 12 月)

- ・ 2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。
- ・ M (マグニチュード) は地震の規模を示します。
- ・ 図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。
- ・ 2011 年 3 月 11 日以降、東北地方太平洋沖地震の活発な余震活動により、規模の小さな地震については未処理のものがああります。

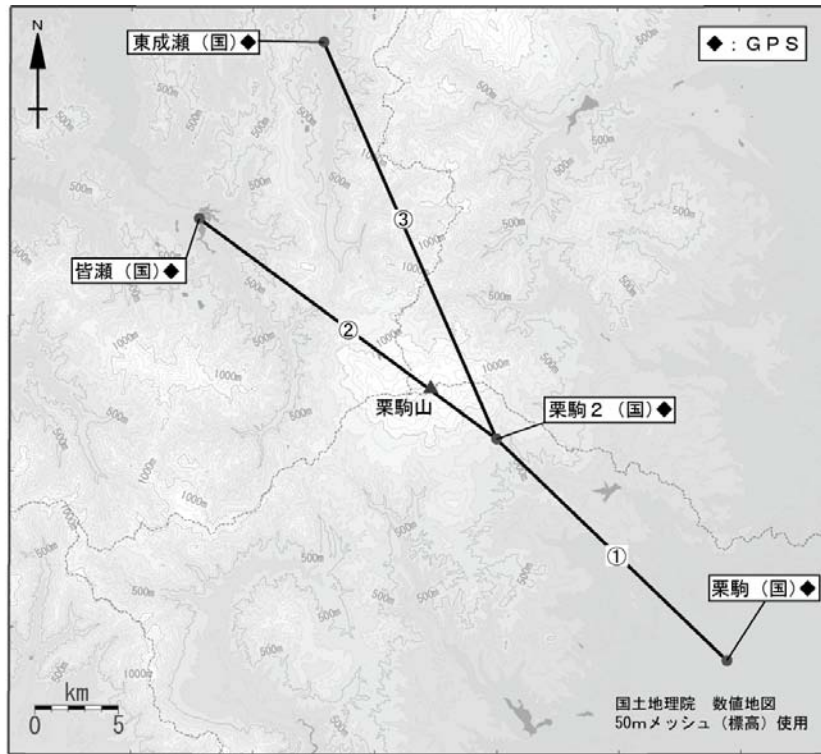


図4 栗駒山 GPS 観測点配置図

小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国): 国土地理院

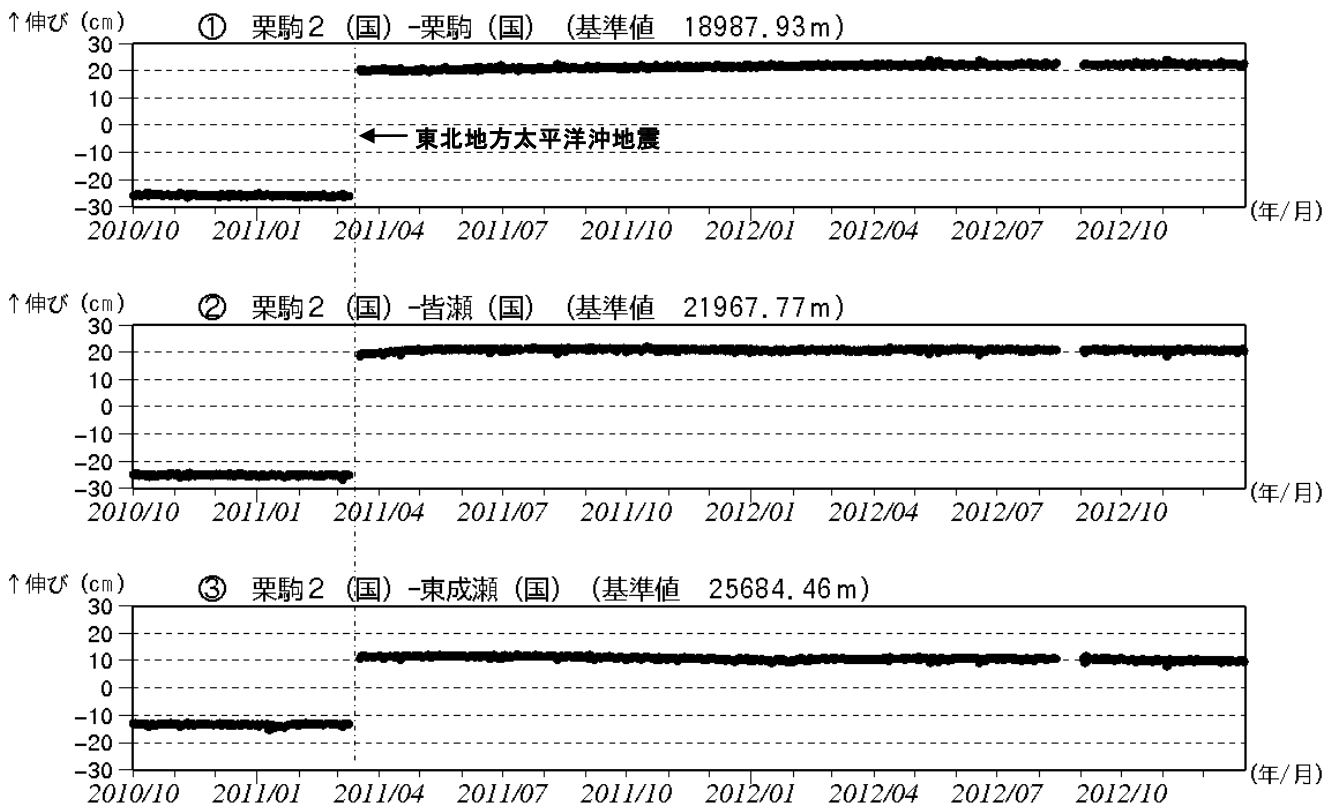


図5* 栗駒山 GPS 基線長変化図 (2010年10月~2012年12月)

- ・ 2011年3月11日以降の変動は、東北地方太平洋沖地震による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
- ・ ①~③は図4のGPS基線①~③に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。

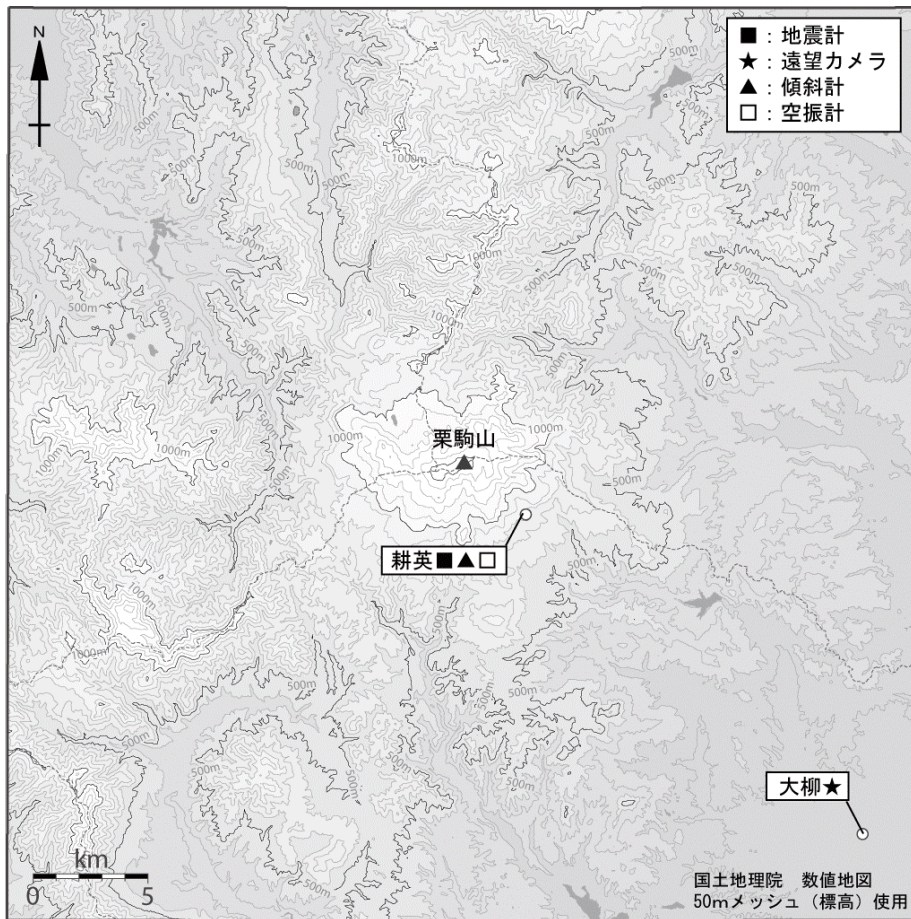


図6 栗駒山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁の観測点位置を示しています。